

議員派遣結果報告書

平成 23 年第 2 回定例町議会において議決された議員派遣について、次のとおり実施したので、その結果を報告いたします。

平成 23 年 7 月 29 日

上富良野町議会議長 西村 昭教 様

議会運営委員長 中村 有秀

記

件 名 北海道町村議会議員研修会及び先進市町村行政調査

1 調査及び研修の経過

平成 23 年 7 月 5 日、全議員 14 名で北海道町村議会議長会主催の北海道町村議会議員研修会に参加するとともに同じく 7 月 6 日、江別市においてエネルギーに関し先進地行政調査を行った。

2 調査の結果

(1) 北海道町村議会議員研修会(札幌市)

研修会において、東京大学先端科学技術研究センター教授 御厨 貴氏みくりや たかしと経済評論家 内橋 克人氏うちはし かつひとによる講演が行われた。

東京大学先端科学技術研究センター教授 御厨 貴氏みくりや たかしからは、菅政権と民主党、2 大政党政治の危機はどうして陥ったのか。また、どうしたらこの危機的状況から抜け出せるかのそれぞれのテーマに沿って、講演が行われた。

経済評論家 内橋 克人氏うちはし かつひとからは、東日本大震災の被災地における現地の状況と課題のほか日本企業が中国などのアジアへ進出することで国内の雇用が問題となり、失業者が増加している。また、多くの穀物を外国に依存しているため、国家的な危機への対処が必要であり、農業、食料、エネルギーの自給圏の形成の必要性などについて講演が行われた。

(2) 先進地行政調査

「ほくでん総合研究所」(江別市)において、次により視察を行った。

- ・寒冷地向けヒートポンプの高効率化に関する研究
- ・人口着雪実験装置(送電線のギャロッピング(送電線が上下に激しく振動する

現象) や着雪対策に関する研究)

- ・ 反音響室 (音響測定)
- ・ 水理膜型実験装置 (ダムの土砂流入制御評価)
- ・ 電力設備点検支援装置 (メカトロ技術の活用)
- ・ 水力・土木設備の診断・保守高度化に関する研究
- ・ 石炭灰混合レンガの開発、商品化成功 (2次製品への有効利用)
- ・ 石炭火力発電所から発生する石炭灰の土壌改良剤への適用を豪州の大学と共同研究

・ 水かけ流し空調方式による新しいチーズ熟成方式を採用した熟成庫の研究開発
江別市役所と市内の「いずみ野小学校」において、太陽光発電システムの実証実験施設の視察を行った。

この施設は平成 21 年に経済産業省の「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」として取り組んだもので、現在は江別市に無償貸与され、今後において 4.5 年を目途に研究が継続される予定である。

太陽光発電は気温が 1 度下がると 0.5% の発電効率が上がるとされ、北海道に優位であるが、一方で積雪寒冷地の問題である積雪、着雪、降雪の影響を受けるためその実証実験を行っている。

市役所本庁舎の壁面に設置されたベランダ型太陽光発電システムは太陽光パネルが 54 枚設置され、年間に一般家庭 3 軒分の年間電気使用量に相当する電力量が発電されている。

設置の太陽光パネルは、設置角度が 90 度と 75 度にそれぞれ設置され、角度の違いによる発電効率の実験を行うとともに市役所 1 階には、発電の状況を示すモニターパネルが設置され、市民がひと目で発電量などが分かる仕組みとなっている。

同じく、市内のいずみ野小学校の隣接地に地上設置型の太陽光パネルが 87 枚設置され、年間に一般家庭 5 軒分に相当する電力量が発電されている。

この施設は積雪を考慮し、地上から 2メートルの高さに設置され、設置角度や設置の段数、設置フレームの有無など季節、天候、積雪などの影響を調査しており、施設内にはモニターカメラが設置され、離れた場所から確認できる仕組みとなっている。

また、学校の校舎内には発電の状況を示すモニターパネルが設置され、児童の学習にも役立っている。

以上、太陽光発電の実証実験施設の視察を行ったが、太陽光パネルによる発電量、発電コストのほか設置場所の確保の課題はあるが、世界的に地球の環境問題の中で自然エネルギーの普及が求められており、当町においても学校施設を含め公共施設における積極的な設置の検討が必要である。